

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより
会員の皆様にお送りしております。

=====

◆◇
◆ NEE Mail Magazine 94号 ◆

2016-11-1 ◆◇

霜月、11月になりました。今月は一番体感気温が低い月です。本州の多くの地域では、教室に暖房を入れるにはちょっと早いし、でも肌寒いという難しい季節です。

今月前半は大学の学園祭の季節。最近は大学紹介のガイダンスもかねて大学祭を活用している大学もあるようです。大学祭は現在の大学生の知的レベルや文化水準を知るチャンスです。一度足を運んでみるのも勉強になるかもしれません。

後半は落ち着いて勉強ができる季節。受験生の顔が変わる時期です。この時期に「受験生顔」になった生徒がいれば合格です。中学校公民では経済の授業が本格的にはじまっていることでしょう。

そんな晩秋、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

10月の活動を報告します。

【 2 】イベントカレンダー

冬の経済教室、部会の案内などを紹介します。

【 3 】授業のヒント

【 1 】最新活動報告

最新のニュース、10月に行われた活動などを報告します。

■東京部会 (No. 86) を開催しました。

日時：2016年10月27日(木) 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部 本館2階中会議室

主な内容：出席者14名。

(1) 加藤一誠先生(慶應義塾大学)から、冬の経済教室の準備状況と教材の開発状況の報告がありました。

(2) 篠原代表から、札幌での冬の経済教室の取り組み状況、石山晴美氏(東京証券取引

所) から、冬休み経済セミナーの案内がそれぞれありました。

(3) 来年3月25日の年次大会の内容構成を検討しました。

テーマは「主権者教育と経済教育」。シンポジウムは、主権者教育に経済教育からどのような貢献ができるかの問題提起と討論を行い、実践報告では、高校生と中学生が政策内容を理解し、それに基づいて政策を自主的に選択できるように育てていくことを狙いとする教材を提案するという方向が決められました。

(4) 実践報告が五本ありました。

① 塙枝里子先生(都立府中東高)からは「交換の経済学」の授業案が提示されました。これは、教科書では、国際経済(貿易)の箇所で扱われる比較生産費説を経済学習の交換の箇所で扱い、かつ機会費用の考え方で比較優位を説明することで、個人の生き方在り方を考察する手がかりとすることをねらいとする授業案です。新しい視点のとりくみで、実践とその結果を待つこととなりました。

② 竹達健頭先生(都立小平西高)から「データ分析を用いた経済・金融教育」の実践例が報告されました。この報告は昨年度の金融広報中央委員会の小論文・実践コンクールで優秀賞を受賞したものです。情報の授業も踏まえて、データ分析による回帰分析を行わせるといった意欲的な授業が展開された様子が報告されました。

③ 杉田孝之先生(千葉県立津田沼高)から「経済の概念を使った主権者教育」の授業実践結果の生徒の反応が紹介されました。生徒はインセンティブ、機会費用などの経済概念を踏まえて、現在の選挙制度の問題を理解し、若者が投票にゆくインセンティブを高めるための制度改革、自分がどう行動するかなどしっかりした見解を示していることが紹介されました。

④ 高橋勝也先生(都立武蔵中・高)から「リスクマネジメントを考える②」という授業案が提示されました。これは、経済的な意思決定に際して、 sunk cost、機会費用、不確実性の三つの概念でリスクマネジメントをしてゆくことに気付かせようという授業案です。残念ながら、時間の関係で、紹介だけで検討の時間がとれませんでした。

⑤ 升野伸子先生(筑波大学附属中)から「超少子高齢化と社会保障」の指導案と実践の報告がありました。この実践の特徴は、年金制度を40年間積み立て、20年間給付を受けるシステムととらえ、それを長方形の図で「見える化」して考察させたことにあります。政策決定ができる生徒の育成という観点から興味深く重要な問題提起の授業案であることが確認されて、今後年次大会などでより深めてゆこうということになりました。

(5) 新井より情報提供として、木村祐一先生（日本大学商学部）らによる『ゲームで学ぶ経済の仕組み』（篠原代表監修）を使った小学生向けの経済教育の試みが紹介されました。また、東京部会のアネックスとして行われている「経済学寺子屋」の活動とこれからの予定も報告されました。なお、在アメリカの宮尾尊弘先生から送られてきた「これさえ知れば、質問も発表もらくらく」の資料に関しては、検討時間がなく次回検討することになりました。

(6) 今回の東京部会は、実践報告が5本と多く、かつ内容充実したものが多かったこともあり、ネットワークの部会活動の広がりや深まりを感じさせるものとなりました。

内容の詳細は、下記のネットワーク HP でご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo086report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

* イベント予定です。

■ 冬の経済教室（東京）を開催します。（既報）

日時：2016年12月27日 13時00分～16時45分

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 東館ホール

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016GeoFuyukeizai.pdf>

■ 冬の経済教室（札幌）を開催します。

日時：2017年1月28日 13時00分～17時00分

場所：北海道教育大学（札幌）サテライト教室

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2017SapporoFuyukeiaiR.pdf>

* 定例部会のお知らせです。（開催順）

■ 大阪部会（No. 51）を開催します。

日時：2016年11月12日（土） 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト(予定)

内容、参加方法などは以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka51flyer.pdf>

■東京部会 (No. 87) を開催します。

日時：2016年11月17日(木) 19:00時～21時00分

場所：日本大学経済学部本館2階会議室A

内容、参加方法などは以下の HP をご覧ください。

■名古屋部会 (No. 9) を開催します。

日時：2016年11月26日(土) 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

内容、参加方法などは以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya009flyer.pdf>

* 関連団体の報告です。

・金融広報中央委員会「先生のための金融教育セミナー」

日時：2016年11月26日(土)

場所：広島国際会議場

詳細は下記をご覧ください。

http://www.festa2016.jp/hiroshima_t/index.html

・東京証券取引所「先生のための 冬休み経済セミナー」

日時：2016年12月30日(金)

場所：東京証券取引所東証 Arrows プレゼンテーションステージ

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.jpx.co.jp/learning/education/school/for-teachers/index.html>

【 3 】 授業のヒント

■用語の背景に注意を向ける

公民の教科書にはゴシックで印刷されている用語がたくさん登場します。教員も生徒もその用語に注目して、教員は解説を、生徒は暗記に走ることが往々にして見られます。ところが、教える側が解説だけでなくしっかりその言葉や概念が登場してきた背景や原典

までみておかないと、用語が一人歩きしたり、まちがった使われ方をしてしまうことが起こります。

例えば、「見えざる手」。昔は「神の見えざる手」と教科書には書かれていたこともあります。また、見えざる手＝市場メカニズム＝自由放任と三大話で暗記されていることは現在でも結構おこっています。

「見えざる手」に関しては、『国富論』（『諸国民の富』とも表記されています）のなかでは一度しか使われていない用語であり、「神の」は書かれていないこと、直接市場メカニズムのことを述べたものではなく、スミスは自由放任という用語を使っていないなどの事実を知らないと、ミスリードを起こしがちです。

同じような事例は結構多くあります。マルクスは資本主義という用語を使っていない（資本家的生産様式）とか、リカードは比較生産費説という言葉は使ってない（比較優位という言葉もない）という事実などがそれにあたるでしょう。

このような教科書でてくる用語は、原典が教科書化されたなかで作られたり、まとめる意味で後継者の手によって名づけられたりしています。そういった研究は専門家に任せたとして、現場の教員ができることは、教科書的に当たり前とされている事項や用語に関しても無批判に受け入れるのではなく、時間があれば原典にあたるなどのほんの少しの道草をすることです。

特に教科書に出てくる決まり文句は要注意です。一見重箱の隅をつつくような話ですが、教科書という本の性質を知ったうえでの授業とそうでない授業のでは、生徒の経済理解が大きく変わる可能性があるといえるでしょう。

ちなみに、この種の用語の使い方に関する最近の論考には、下谷政弘『経済学用語考』日本経済評論社があります。そのなかでは、筆者が書いた「カルテル・トラスト・コンツェルン」の箇所が問題例として取り上げられています。

（新井）

【 4 】編集後記（みみずのたはこと）

授業のヒントにも書きましたが、この頃、編者は経済用語の来歴に関心があり、文献調査をしています。そのなかで、国立大学（今は国立大学法人）の図書館や研究所の資料室がかなり開放的になっているのにびっくりしています。先日も一橋大学の経済研究所の資

料室所蔵の本を調べに行きましたが、紹介状もいらず身分証明で簡単に入れて、資料の閲覧ができました。時代は変わってきています。利用しない手はありませんね。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇